

# 釧路南ロータリークラブ会報

第 12 回 例 会 報 告 2007.9.28 通算 1223 回

・点 鐘 佐野会長

・ロータリーソング

「手に手つないで」

ソングリーダー 小野 一明会員

・お客様と来訪ロータリアンの紹介

(株) 高橋商会 代表取締役 高橋 敏様

・入 会 式

新入会員 菅井 紀之 (S41.6.21 生)

(有)サポートシステム 代表取締役 職業分類・医療事務

務の委託をなさっています。年齢は41歳で中小企業家同友会にも入会しています。ご家族は奥様とお子様は21歳、13歳、9歳と3人いらっしゃいます。長男は東京で看護師の学校に行きながら病院に勤務しています。私とは5、6年前からお店を通じての関係です。人柄は几帳面で心配性な方ですが、反面実行力があり大胆な方でもあります。趣味は特にないと伺っていますが、良く聞くのはデズニーランドが大好きだそうで、年に二度三度ご家族で3泊、4泊して行かれるそうです。私もデズニーランドが大好きで2人でデズニーランドの話をして盛り上がっています。明るく話しやすくまじめな方なので、すぐに慣れ親しんで頂けると思います。



〈山本美穂会員よりご紹介〉

このたびは釧路南 RC に入会させて頂きまして有難うございます。先日は入会前にも係わらず、例会に参加させて頂き、ずうずうしく3次会まで出席させて頂き沢山ご馳走になり有難うございました。まだまだ未熟者ですがこれから色々なことを学び自分を少しずつ成長させて行きたいと思いますので諸先輩方のご指導を宜しくお願い致します。本日は有難うございます。

〈新入会員のご紹介〉 スポンサー 山本美穂会員  
菅井さんは平成12年に鳥取大通り8丁目に(有)サポートシステムを立ち上げました。業務内容は医療事

・誕 生 祝

多田 和代会員 S44.9.28 (38歳)



## ・結婚祝

佐野 実会員 S 57. 10. 3 (25 年目)



## ・会長挨拶

今日は今年度 4 人目の新入会員の入会式です。大変良いペースで来ていますので、当初の目標が達成できるように会員皆様のご協力を宜しくお願いします。次週は地区大会のため休会になります。地区大会は年に一度の行事ですので参加する方は実りある大会にしてください。

## ・幹事報告

- \* 10月のプログラムは第1週が地区大会と重なりますので休会します。
- \* 根室西 RC より 10月のプログラム、9月の会報を拝受しています。
- \* 中越沖地震の義援金につきまして海田ガバナーより 1,697,775 円集まりましたと報告とお礼が来ています。
- \* 社会奉仕委員会から提案のあった地区補助金を使って事業をしたいとの事で協議しましたところ、来年4月に住吉町に移転する「こばと学園」に必要な物を贈呈する予定で進んでいます。

## ・委員会報告

### 親睦委員会

- ・ 10月14日(日) 家族同伴スポーツ例会は阿寒町の赤いベレーで行います。多数の出席をお願いします。

### ・本日のニコニコ献金

多田 和代会員 誕生日として  
佐野 実会員 結婚祝として

## 出席委員会

会員数 29 名

本日の出席者数は 19 名、出席率 65.5%

## ・本日のプログラム

「ゲスト講和」

担当 社会奉仕委員会

### ●(株)高橋商会 代表取締役 高橋 敏様



自社は、リサイクルパーツの販売と、鉄・非鉄の再資源化をすることで使用済み自動車を適正に処理していく企業です。現在、会社で取り組んでいることをお話します。昭和 40 年来、世界に大きな車社会があったがそれに打って出たのがトヨタ、ホンダ、日産です。昭和 40 年代の我々団塊の世代がちょうど 20 歳代になったころ日本も豊かになって車に乗れる時代が到来した。それに伴って車の壊れることが多くなり、特に北海道と九州で新品のパーツが集まりづらくリサイクルをしなければならなかったのが原点。私は釧路で生まれ、親父が炭坑夫だったので親孝行の為太平洋炭坑に入った。人生このままで終ってよいのかと考え 27 歳で辞めたが就職に難儀した。マージャン仲間に解体屋さんがいたのでそこでアルバイトをした。車のバッテリーやフェンダー等のパーツが求められていた。これはビジネスになるなと思った。この業界に 7 年いて 35 歳で独立し今年で 25 年になる。当時は街から離れた湿原の近くで車を野積みにしてパーツをもぎ取りしていた。しかしこのようなことは効率が悪くいづれビジネスとしてだめになるなと思った。NTT がファックスを作ったときに部品の流通が出来ると思った。そんな時に九州から全国展開したいという人がいて、私が北海道の支部長として就任した。8 年ぐらいで全国に組織拡大し

ながら、コンピューターシステムを開発し中古の品質基準や価格の統一に取り組んだ。整備工場や板金屋さんが全国何処から買っても、新品価格の50%以下、ユーザーには60%位にした。このため売上が10倍、20倍に伸びた。解体業の組織は7団体あり我々の団体が一番大きく200社位になっている。2000年から4年間会長をしたが意見が合わなく2004年に組織を抜けた。ドイツのリサイクル法が施工される前を見ていたら、最終的には大手の異業種が参入してくるので零細企業は生き残れない。リサイクル法が出来ることで、仕入れが大事だと思った。NPO法人を作った。中国と韓国、インドなど東南アジアの車がもっと増えてくるのでリサイクルを上手にしていかなければ、エネルギーの問題と環境汚染の問題が出てくると思った。6月に解体業の世界サミットが海外から300名集めて東京でフォーラムが行われた。リサイクル法が施工される前に許可制の問題が出てきた。私の会社は工業団地に移転していたが、解体業は野積みしているのが大半なのではないかと思われていたので全国で50社位ISO14000を取って宣伝につかった。メーカーも中古パーツを使っている。損保会社もリサイクル特約保険がある。時代にマッチングした企業体を作ろうと日々努力している。年間200～300名の方がうちの会社に訪問に来ている。

## 1. 自動車リサイクル法制定の背景

①鉄スクラップ相場によって廃車の価値が大きく変動

②最終処分場の逼迫と不法投棄・不適正処理の発生

③廃車を処理する際に遵守すべきルールが不適確

## 2. 自動車リサイクル法の目的

①経済原則に基づくリサイクルの確立

②廃棄物問題の解決・地球環境問題への貢献

③不法投棄・不適正処理の未然防止

車の中に入っている銅部（銅線、モーター関係）を0.3%までは入れても良い。2015年までにメーカーは95%をリサイクルしようとしている。うちは早くから取り組み70%位の車を全部利用している。

2005年前に車の処理費が掛かるために山や畑の裏に野積みされている車を片付けている。かならず出てくるのが廃タイヤやエンジンを抜いたボディです。ボディは機械でプレスし、廃タイヤは、1本300円～500円貰わないとならないが、本業でリサイクル

パーツをやっているのでタイヤを購入した方には無料で処理する。地域貢献の為にタイヤだけ持ってきた人は1本100円で引き取っている。去年は廃タイヤを8万本処理した。廃タイヤは破碎して王子製紙苫小牧工場に売っている。

経営理念は車の循環型社会にあつて、廃自動車の適正処理の総合的な事業に取り組み、車社会のリサイクル総合商社として道東の地域社会に貢献する。従業員は37名で、働く社員にそれなりの生活を保障をする為に頑張っている。年商7億円。タイヤ処理の方は機械が4千万円と2人をかけているので多少かぶっているが、本業のほうで補っている。社員は仕事が好き、会社が好き、親父が好き出なければ付いてこれない。社員に好きになってもらえる社長でありたい。それは何かと言うと最後はご苦労さんだと思う。日常、「ありがとう」、「感謝」、「ついでに」の3つを心がけている。自分のやっていることで必要性が少しでも見出せば良いかと思う。地域に根強いことをやって行きたいと思う。環境問題や個人情報に真剣に取り組んでいる。これらを会社の中で生かして行くことが大事だ。



## ・次回のプログラム

10月12日（金）

「地区大会報告」クラブアッセンブリー

会場 釧路全日空ホテル

担当：会長・幹事

・点 鐘 佐野会長

今週の会報担当：福井克美会員